



## 「嵐の中を進む勇氣」

～どんな嵐の中も共にいてくださる主～

「でも、元気を出しなさい。船は沈みますが、だれも死にはしません。ゆうべ、天使がそばに立ち、こう知らせてくれたのです。『恐れることはない。パウロ。あなたはまちがいなく、カイザルの前で裁判を受けるのです。そればかりか、神はあなたの願いを聞き届け、同船の人たち全員のいのちも救ってくださいます。』さあ、元気を出して。私は神を信じています。神様がおっしゃることにうそはありません。」

使徒行伝27章22～25節 [リビングバイブル]

パウロは実際の地中海を渡っている時に、大嵐に遭い、死にそうになりました。しかし、私たちの人生も船旅のようです。「人生一寸先は闇」とも言われますが、私たちの未来はたとえ1秒先のことも皆目見当がつきません。

インターネットのニュースで、お寺の掲示板のこぼれにドキッとした。ということで、その内容がニュースになっていました。そのお寺の掲示板のこぼれが、「おまえも死ぬぞ」という言葉だったそうです。今月から仏教伝道協会という団体主催で、ツイッターやインスタグラムを通じて「お寺の掲示板大賞」という所に応募することができるようになったということ。お寺離れが深刻だと言われていますが、この伝道協会が企画した初心者向けの講座には若い世代の参加も増えて、その教えに関心を持つ人々も増えているそうです。「おまえも死ぬぞ」という言葉を書いた岐阜県郡上市の願蓮寺の石神明住職(80)は、「人生の真実のあり方を端的に教えるのが仏教。死をひとごとに思いがちだが、死は誰にも平等に訪れる。そのことに目覚めることで、命や生き方を見つめ直してもらえれば」とのことでした。

仏教も頑張っていると、感心している場合ではありません。負けてはいけません。この週報の言葉もインターネットに載せていますので、ひとりでも多くの方々に届くように願っています。

仏教は哲学と同じ、考えさせる宗教です。そこまでしか教えてくれません。しかし、聖書の福音は、どんな大嵐の真中にあっても、永遠の救いがあると語ります。人生最大の嵐は「死」という嵐です。その嵐は誰も乗り越えることはできません。「船は沈みますが、だれも死にません。」というのがキリスト教の信仰である「復活信仰」です。船、私たちの人生そのものが沈んでしまったら、私たちはもう終わりだと考えてしまいます。しかし、「死んでも生きる」のがイエス様がなしてくださった復活による希望の世界です。「おまえも死ぬぞ」の先にある、「あなたも生きる！」という希望が語られているのです。

西日本の豪雨のためにご献金くださり感謝致します。33,000円をお送りさせていただきました(日本国際飢餓対策機構宛)。今の酷暑も、私たちの生活を追い込みます。しかし、私たちの人生の先には永遠の希望が与えられています。あなたもご一緒にいたしましょう！